県会議員　奥村のり子　の
しんぶん 赤旗 読者ニュース
２０１２年　７月１５日　第４７号

――奥村のり子生活相談所――
〒640-8212 和歌山市杉ノ馬場 1-11
電話＆FAX０７３－４２７－７１２１

「消費増税はすべて社会保障に」

首相のウソ発言

野田首相は、消費税増税は「すべて社会保障に還元される。これが今回の改革の大きなポイントです」（６月２６日会見）とのたまった。ところが国会論戦で５％増によって増える税収、年１３．５兆円のうち「７兆円は社会保障にまわらない」と厚生労働省。どこに消えるか？赤字国債分などに「置き換わる」と岡田副総理が認めた。

消費増税と社会保障の改悪で２０兆円の負担増になる「改革」。大和総研の試算で、１１年と比べ増税後の１６年の家計への影響は、税や社会保険料を差し引いた可処分所得は平均５％減ると…。年収３００万円の世帯では約２５万円（８．３％）、８００万円の世帯では４３万円（５．４％）も減る。消費税は低所得世帯ほど重い負担である。加えて子ども手当ての減少、年金保険料増や住民税の控除廃止、高齢世帯は年金が今年６月から１５年６月まで５回に分け計３．７％も減らされ、介護保険料は増えるばかり。

「税と社会保障の一体改革」と称し、真っ赤なウソを言う首相は子どもの教育上も悪いノダ。（編集室）

のり子の週間予定（主なもの）

７月１３日　早朝市駅前宣伝、学習会
１４日　近畿福祉大会、朝椋神社まつりボランティア（血圧測定）
１５日　〃　〃
１６日　地域訪問
１７日　地域訪問、党社保部会
１８日　県議団会議、党障対部会
１９日　無料生活相談日、社保学校

「経済提言」の中身を詳しく分りやすく紹介する山下参議院議員

日本共産党の「経済提言」懇談会
予想を超える参加者に勇気づけられました

先週の日曜日（８日）に行われた山下よしき参院議員を迎え、日本共産党の「経済提言」の懇談会は、予想を超える参加者で大変勇気づけられました。

懇談会を前に、くにしげ秀明衆院１区候補を先頭に、市議団の皆さんとともに私も労働者後援会の役員の方とごいっしょに団体を訪問し参加を訴えてまいりました。今回は私自身今まで訪問させて頂いたことのない所に行きましたが、どこでも経済提言のパンフを手に取って「読ませてもらいます」と関心をもっていただきました。「消費税増税で景気が良くなるとは思わない」との声を聞くこともできました。参議院での審議が始りましたが、消費税に頼らず社会保障を充実し、財政危機を打開する道筋を皆さんとごいっしょに考えてゆきます。

毎週金曜日の朝７時～８時、市駅前で早朝宣伝を行っています。これに参加している城北後援会の方は、「だんだんビラを受け取ってくれる人が増えてきた」と言われました。ぜひ皆さん経済提言パンフを持ってご家族や知人の皆さんにご紹介下さい。

消費税の増税を許さないためともにがんばりましょう。

奥村のり子

地域ぐるみで避難訓練
地震・津波想定し５０００人以上参加

リレートーク relay talk

党市議会議員
渡辺　忠広

６月２４日、私が居住する木本地区では、地区全体が津波・地震被災を想定した「避難訓練」が実施されました。避難場所は和泉山系に建設された八幡台小学校、警察学校、児童公園、墓地の４カ所を指定し、原則として徒歩での訓練が呼びかけられました。

４カ所の避難場所には少なくとも５千人以上が参加し、訓練の様相はテレビ、新聞にも報道されました。和歌山市では初めての大規模訓練となり、市の担当部局も今後の避難訓練の参考とするため、積極的に参加していただきました。

訓練には全自治会、民生・児童委員、地域安全推進委員、地区消防団、警察等々の協力のもとに進められ、日頃から地区組織の横の連携が少ない組織が一体となっての訓練は成功しました。木本地区は全体が低地に町並みが造られたため、和歌山市が示した「標高マップ」では海抜２ｍ未満の地区が圧倒的な面積を占めています。

「避難場所」とされる高台・海抜１０ｍ以上は山並み以外には有りません。

私が避難場所の総指揮・責任者となった八幡台小学校では、当初参加者は７百名としていましたが、１千名を越える参加者です。自治会が中心となり、１０時に自宅を避難する指示を出し集合場所は小学校のグランドとしましたが、受付は大混乱で支給する水ポットも短時間で足りなくなってしまいました。

避難には「どの程度の時間がかかるか」「どの程度の体力が必要か」を知ることによって実際の避難経験をすることが目的です。また意識して「橋」を回避して避難してきたか、なども聞き取りをしました。地震になれば橋は崩落し避難が困難となるためです。

河西地区には避難指定ビルはありません。また避難指定場所は磯の浦地区の１カ所だけです。トンネル化されていない簡易な「橋」も多数あります。橋の耐震・トンネル化、人口に見合った避難場所指定など、整備を今後とも和歌山市に求めていきたい。（写真は八幡台小学校グラウンド入り口）